

令和4年度 事業報告書



一般財団法人札幌市環境事業公社

目 次

I 事業総括	1
II 事業報告	
1 調査啓発事業	2
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	3
3 資源化事業	
3-1 剪定枝等処理事業	5
3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業	7
3-3 施設管理受託事業	
(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業	10
(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	13
(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	15
(4) 札幌市リサイクル団地管理事業	17
3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業	18
4 事業系ごみ収集運搬事業	20
5 重点項目の実施状況	22
6 附属明細書	24

I 事業総括

当公社は、札幌市と連携し、調査啓発事業、資源化事業、事業系ごみ収集運搬事業等の10の事業を実施している。

令和4年度については、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつあり、事業系ごみ収集量が増加したことにより収益・費用ともに予算を上回り、収支状況においても良好な決算状況となった。

各事業の実施状況については、調査啓発事業では、剪定枝等の受入状況調査を前年度に引き続き実施。事業系紙おむつのリサイクルに関する調査については、札幌市の現状を把握するため、潜在量、排出状況等について調査を行った。また、各種イベントへの参加等も積極的に行った。

不燃用プリペイド袋リサイクル事業のリサイクル率は、概ね計画通り推移している。

資源化事業については、びん・缶・ペットボトル選別事業では、ほぼ計画通り受入・処理を行い、ごみ資源化工場・中沼プラスチック選別センター等の施設管理受託事業については、処理に支障が生じないよう安定した管理運営体制の確保に努めた。

事業系ごみ収集運搬事業については、資源化ごみ86千 m^3 、生ごみ41千 m^3 、不燃用プリペイド袋28千 m^3 、剪定枝3千 m^3 、びん・缶・ペットボトル17千 m^3 、一般ごみ830千 m^3 を収集し、体積で計画比8.7%の増（前年度実績比5.9%増）、重量で計画比4.4%の増（前年度実績比5.0%増）となった。

総じて各事業とも新型コロナウイルス感染症等による影響が懸念されたものの、適切に対応し安定した業務を遂行することができた。

重点項目については、引続き下記の5項目の推進に向けて各種取組を積極的に進めている。

■ 重点項目

- 事業系ごみ収集運搬事業の効率化
ごみ量の変化に対応した効率的な収集体制の確立
- 施設の計画的な保全
「中沼・駒岡資源選別センター」の老朽化対策
- リサイクルに関する調査研究
将来の事業につながる新たなリサイクル技術等の調査研究
- 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応
ごみの減量・リサイクルの推進や公社の取組に関する積極的な情報発信と顧客サービスの向上
- 事務・事業の見直し及び経費の節減
事業環境の変化や社会のニーズに対応した事務・事業の再編・再構築や、効果的・効率的な支出の徹底

Ⅱ 事業報告

1 調査啓発事業（決算額 47,737,661 円）

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクルに関する調査研究を実施。 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、(1)広報活動による情報発信、(2)環境関連のイベントへの出展や協賛を行っている。
目的・効果	リサイクルに関する調査研究、リサイクルの普及啓発

■令和4年度事業実績

(1) 調査研究事業

①剪定枝等処理事業に使用している粉砕機ハンマーに関する調査研究

平成29年度からハンマーのライフサイクルの適正化とコストの削減を目的として、各種試作ハンマーでの実証試験を行った結果、材質をスウェーデン鋼、形状を片刃にすることで、従来コストを半減する成果が得られたことから、令和4年度をもって本調査を終了した。

②剪定枝等の受入状況調査

近年、国内では木質バイオマスの利用拡大に伴い、事業者間で木材等の調達競争が激化している。当公社の剪定枝等処理事業についても、受入量が減少傾向にあることから、今後の事業運営の検討資料とするため、チップ工場で受け入れる剪定枝等の発生場所や業種毎の搬入量等について、令和3年度に引き続き令和4年度も調査を継続した。

③事業系紙おむつのリサイクルに関する調査

高齢化社会に伴う介護需要の増加により、事業系紙おむつの排出量の増加が見込まれる。札幌市の現状を把握するため、令和4年度は潜在量、排出状況等について調査を行った。

(2) 普及啓発活動

①広報活動

- ・当公社の事業内容及び各年度の事業実績等をまとめた「事業概要」を250部発行し、関係先に配布した。
- ・びん・缶・ペットボトルリサイクルの普及啓発のため、札幌市内小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を17,000部発行し、市内全校に配布した。
- ・ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信した。
- ・啓発ポスターをごみ収集車の車体側面に掲示する「走る掲示板」の啓発活動については、教育委員会及び対象校等との連絡を密にし、例年どおりに実施した。

②イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

「環境広場さっぽろ」について、新型コロナウイルスの影響でバーチャル開催が続いていたが、3年振りに札幌ドームでリアル開催されたので、例年どおりの出展を行った。

また、「さっぽろこども環境コンテスト2022」や「さっぽろ雪まつり」等に協賛するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用した広報活動・普及啓発を行った。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 62,975,321 円)

■事業概要

事業経緯	平成21年4月から実施している公社の自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和63年3月完成の市有施設 ※選別に係わるものは公社が設置
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

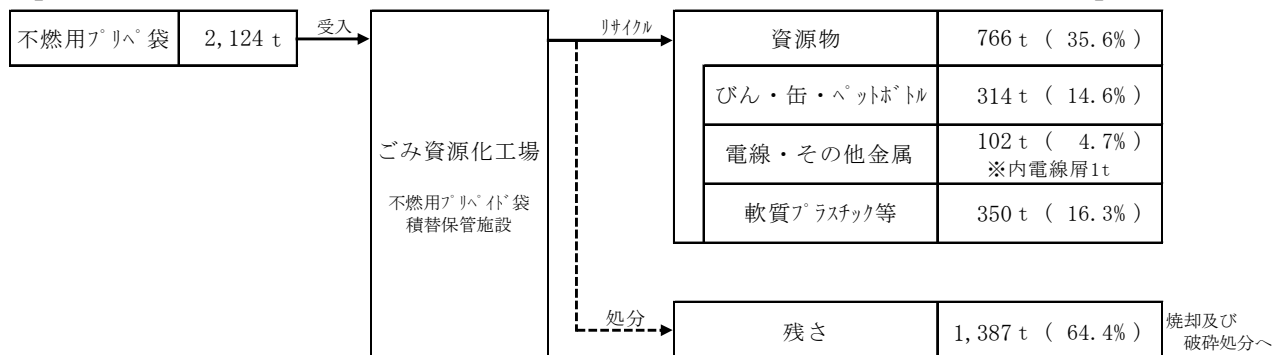
【選別品目と活用方法】

選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原料として活用

■令和4年度 事業実績

項 目	計 画	4年度実績	前年度実績	摘 要
不燃用プリペイド袋受入量	2,000 t	2,124 t	1,948 t	計画比 6.2% 増、前年度実績比 9.0% 増
資 源 物	683 t	766 t	683 t	計画比 12.2% 増、前年度実績比 12.2% 増

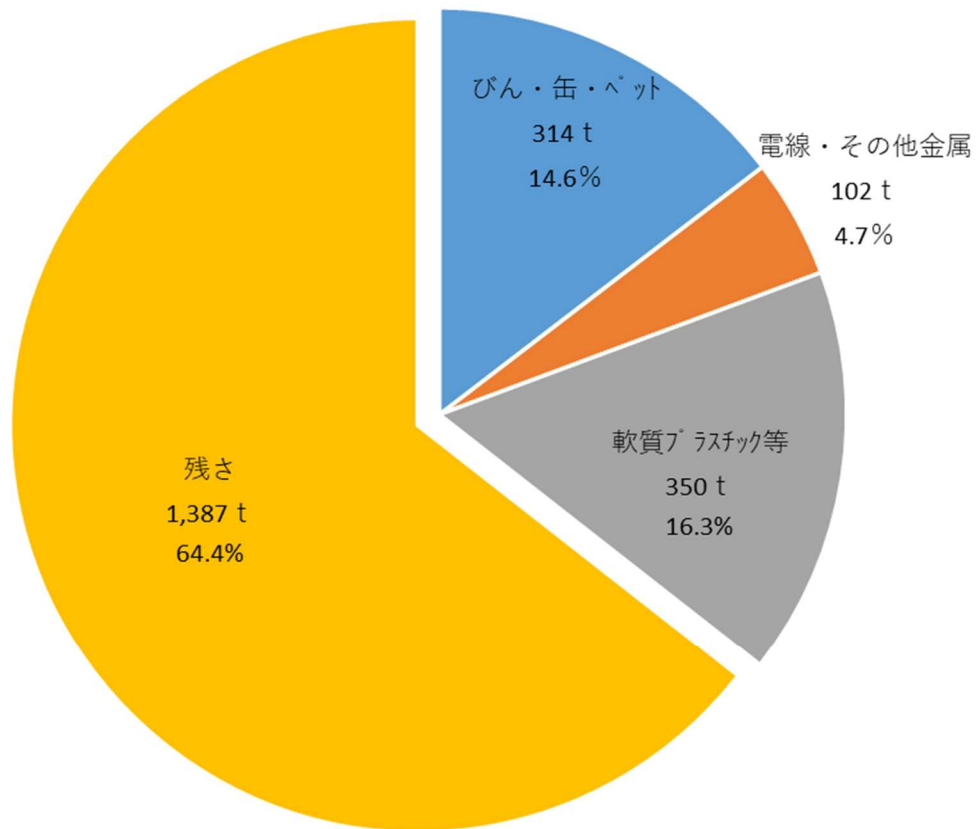
【図2-1 令和4年度 不燃用プリペイド袋リサイクル事業実績フロー図】



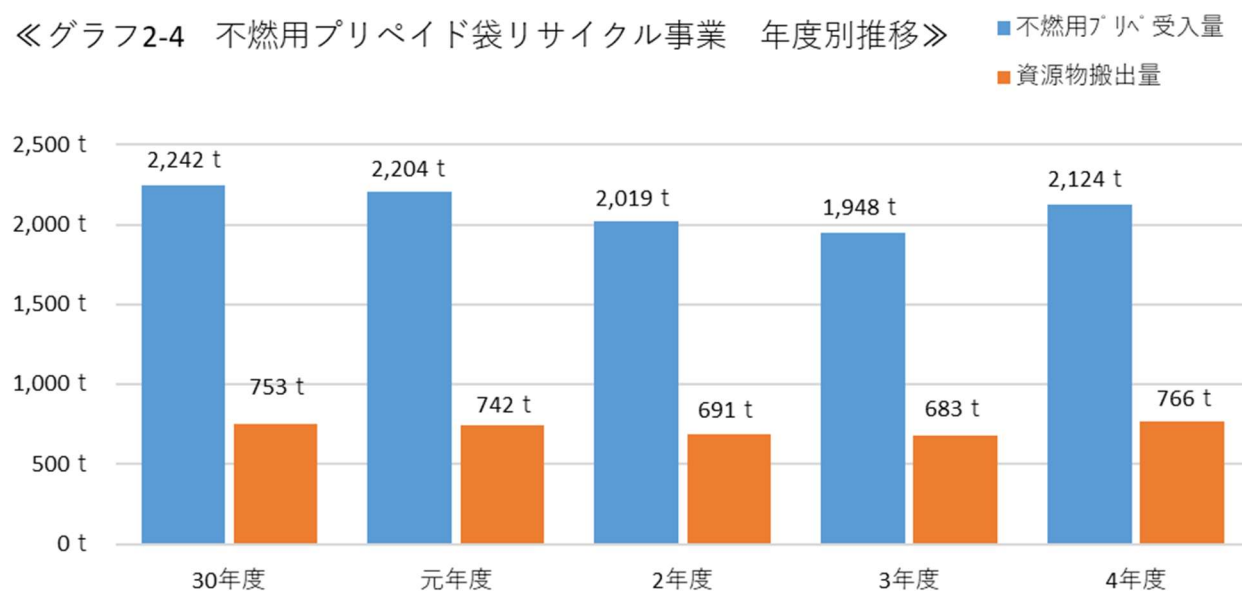
【表2-2 直近5年間の事業実績】

項 目		直近5年間の実績					摘 要 (令和4年度実績の状況)
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
受入量		2,242 t	2,204 t	2,019 t	1,948 t	2,124 t	前年度実績比 9.0% 増
資源物	びん・缶・ペットボトル	323 t	314 t	277 t	281 t	314 t	
	電線・その他金属	119 t	115 t	101 t	94 t	102 t	※内電線屑1t
	軟質プラスチック等	311 t	313 t	313 t	308 t	350 t	
	資源物合計	753 t	742 t	691 t	683 t	766 t	前年度実績比 12.2% 増
残さ		1,560 t	1,544 t	1,366 t	1,308 t	1,387 t	焼却及び破碎処分
リサイクル率		32.6%	32.5%	33.6%	34.3%	35.6%	資源物合計/(資源物合計+残さ)

《グラフ2-3 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 令和4年度実績》



《グラフ2-4 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 年度別推移》



3 資源化事業 (決算額 1,281,260,853 円)

3-1 剪定枝等処理事業 (決算額 56,081,855 円)

■事業概要

事業経緯	平成 20 年 9 月の旧札幌リサイクル公社廃止に伴う継承事業で、平成 20 年 10 月から当公社の自主事業として実施している。
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破碎処理等して 45mm以下のチップに加工し、堆肥の原料やボイラー熱源、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 ※行政財産使用許可を得て、公社が借り受け 横型回転破碎機 (15 t/h) ×1 基、振動篩等
目的・効果	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化

【受入対象物】街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根

【受入条件】幹は直径 80 cm以内、長さ 2m以内

根は最大寸法 (直径または長さ) 1m以内で、土を落としたもの

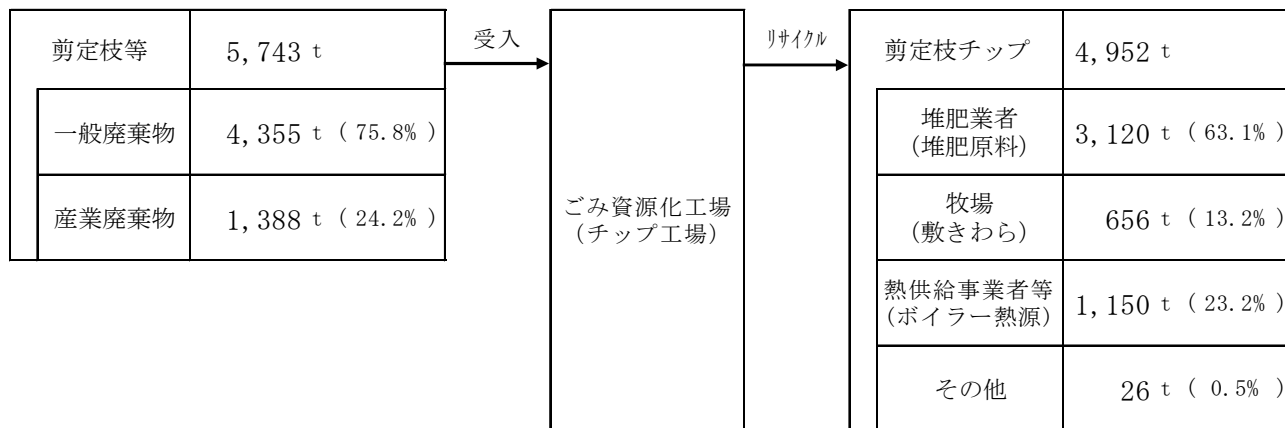
【チップ仕様】45mm 以下 (用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整)

【供給先】堆肥生産事業者 (堆肥原料)、熱供給事業者 (ボイラー熱源)、牧場 (敷きわら)

■令和4年度 事業実績

項目	計画	4年度実績	前年度実績	摘要
剪定枝等受入量	6,000 t	5,743 t	6,074 t	計画比 4.3% 減、前年度実績比 5.4% 減
チップ出荷量	4,500 t	4,952 t	5,378 t	計画比 10.0% 増、前年度実績比 7.9% 減

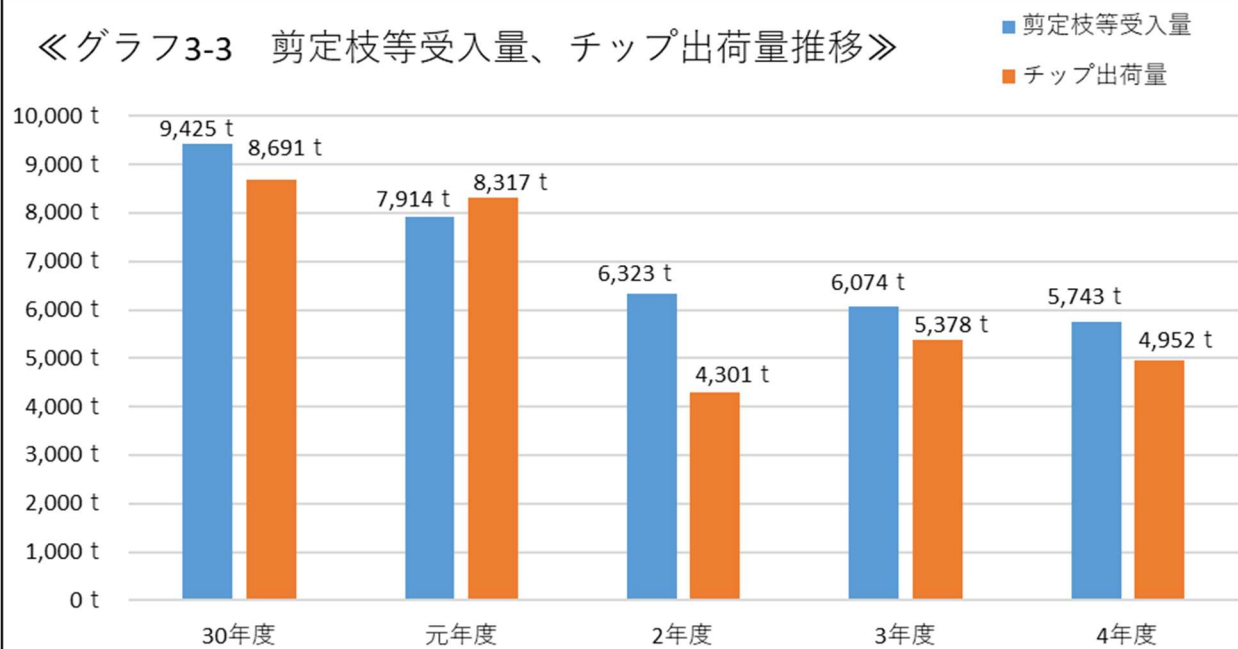
【図3-1 令和4年度 剪定枝等処理事業実績フロー図】



【表3-2 直近5年間の事業実績】

項目	直近5年間の実績					摘要 (令和4年度実績の状況)
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
剪定枝等受入量	9,425 t	7,914 t	6,323 t	6,074 t	5,743 t	前年度実績比 5.4% 減
チップ出荷量	8,691 t	8,317 t	4,301 t	5,378 t	4,952 t	前年度実績比 7.9% 減

《グラフ3-3 剪定枝等受入量、チップ出荷量推移》



3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 1,027,909,727 円)

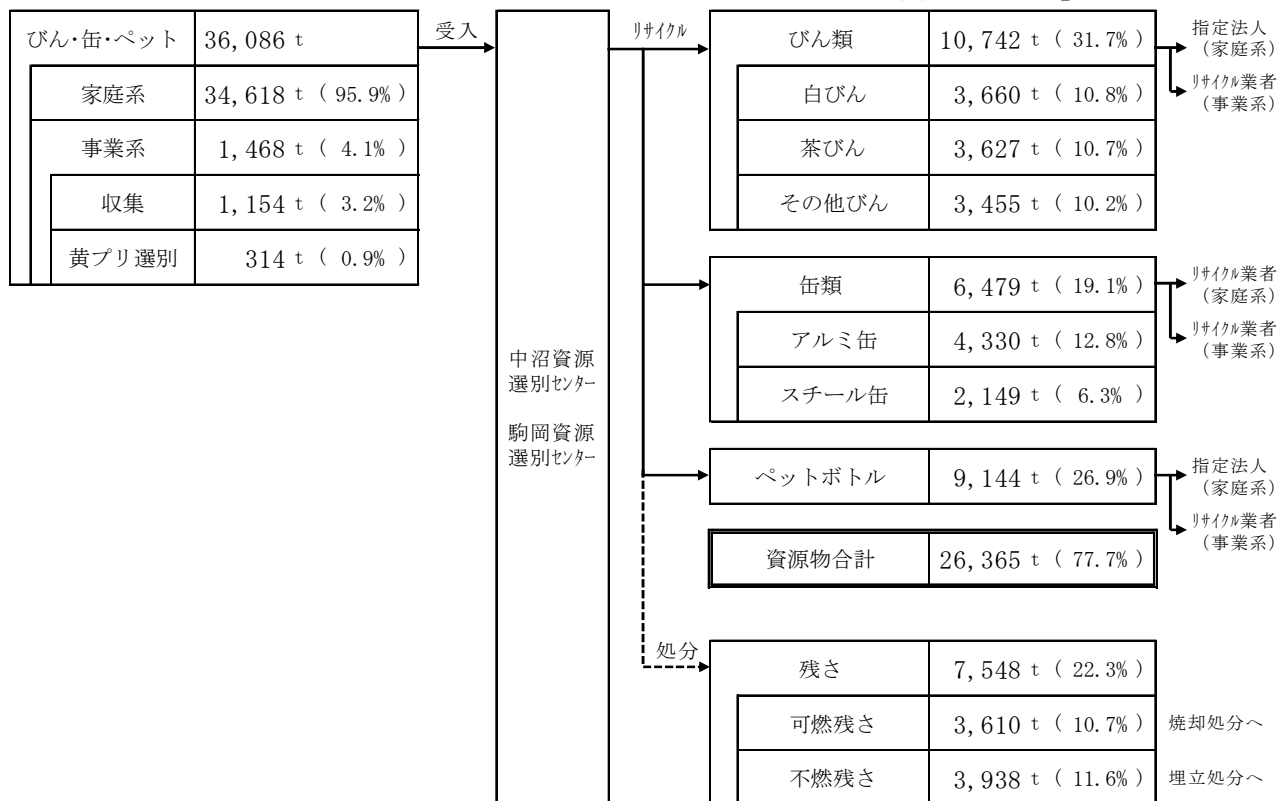
■事業概要

事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するにあたり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結、施設の完成後、平成10年10月から本格実施している札幌市からの受託事業
実施内容	・札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 ・公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 ・なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、札幌市との当初の協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。 ・令和3年10月からは、札幌市が「びん・缶・ペットボトル」の日に別袋収集する乾電池の選別・梱包・保管する作業を行っている。
実施場所 (受入施設)	中沼資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 36.7 t/日(8h) × 3 系列 = 110 t/日(8h) 駒岡資源選別センター (平成10年9月竣工) 処理能力 38.5 t/日(8h) × 2 系列 = 77 t/日(8h)
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

■令和4年度 事業実績

項 目		計 画		4年度実績		前年度実績		摘 要	
受 入 量	中沼資源選別センター	24,150 t	家庭系 23,237 t 事業系 913 t	24,043 t	家庭系 22,975 t 事業系 1,068 t	24,596 t	家庭系 23,711 t 事業系 885 t		
	駒岡資源選別センター	11,510 t	家庭系 11,163 t 事業系 347 t	12,043 t	家庭系 11,643 t 事業系 400 t	12,042 t	家庭系 11,718 t 事業系 324 t		
	合 計	35,660 t	家庭系 34,400 t 事業系 1,260 t	36,086 t	家庭系 34,618 t 事業系 1,468 t	36,638 t	家庭系 35,429 t 事業系 1,209 t		
	家庭系： 計画比 0.6% 増、 前年度実績比 2.3% 減 事業系： 計画比 16.5% 増、 前年度実績比 21.4% 増								
資 源 物 搬 出 量	中沼資源選別センター	17,638 t		17,521 t		17,864 t			
	駒岡資源選別センター	8,522 t		8,844 t		8,952 t			
	合 計	26,160 t		26,365 t		26,816 t			
			びん類 10,910 t		びん類 10,742 t		びん類 11,135 t	計画比 1.5% 減、 前年度実績比 3.5% 減	
			缶類 6,475 t		缶類 6,479 t		缶類 6,642 t	計画比 0.1% 増、 前年度実績比 2.5% 減	
		ペット 8,775 t		ペット 9,144 t		ペット 9,039 t	計画比 4.2% 増、 前年度実績比 1.2% 増		

【図3-4 令和4年度 びん・缶・ペットボトル選別事業実績フロー図】



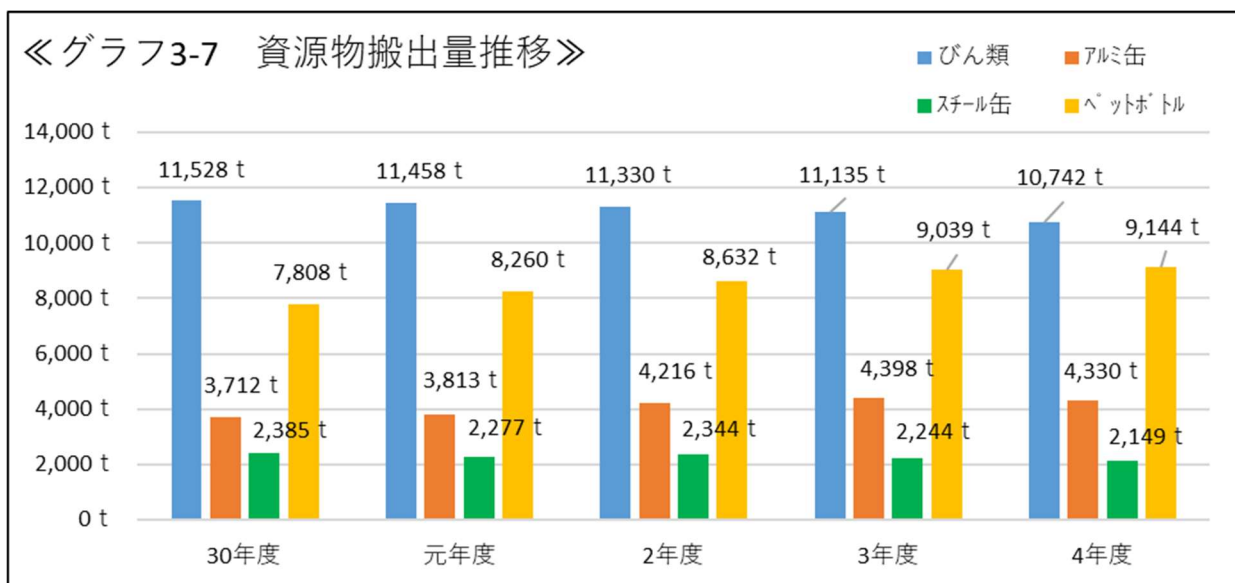
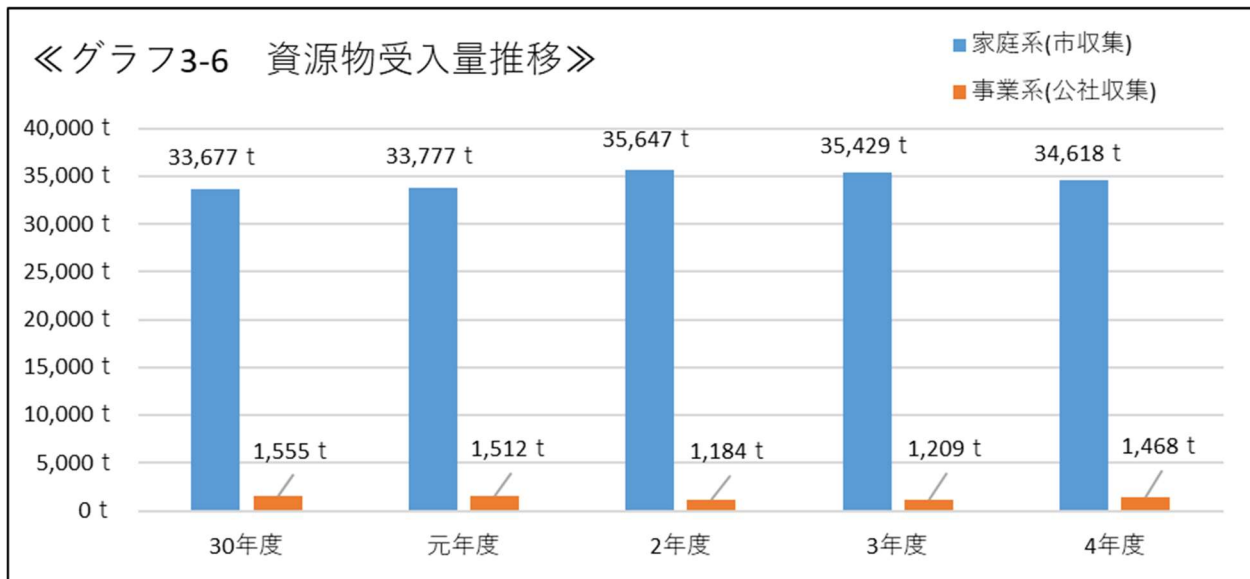
【表3-5 直近5年間の事業実績】

項 目		直近5年間の実績					摘 要	
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	(令和4年度実績の状況)	
	受入量	35,232 t	35,289 t	36,831 t	36,638 t	36,086 t	前年度実績比	1.5% 減
	家庭系	33,677 t	33,777 t	35,647 t	35,429 t	34,618 t	前年度実績比	2.3% 減
	事業系	1,555 t	1,512 t	1,184 t	1,209 t	1,468 t	前年度実績比	21.4% 増
	公社収集	1,232 t	1,198 t	907 t	928 t	1,154 t		
	黄ﾌﾟﾘ選別	323 t	314 t	277 t	281 t	314 t		
資源物搬出量	びん	11,528 t	11,458 t	11,330 t	11,135 t	10,742 t	家庭系のみ指定法人ルート	
	白びん	4,372 t	4,071 t	4,061 t	3,829 t	3,660 t		
	茶びん	3,739 t	3,766 t	3,698 t	3,655 t	3,627 t		
	その他びん	3,417 t	3,621 t	3,571 t	3,651 t	3,455 t		
	缶	6,097 t	6,090 t	6,560 t	6,642 t	6,479 t		
	アルミ缶	3,712 t	3,813 t	4,216 t	4,398 t	4,330 t		
	スチール缶	2,385 t	2,277 t	2,344 t	2,244 t	2,149 t		
	ペットボトル	7,808 t	8,260 t	8,632 t	9,039 t	9,144 t	家庭系のみ指定法人ルート	
	資源物搬出量合計	25,433 t	25,808 t	26,522 t	26,816 t	26,365 t	前年度実績比	1.7% 減
残さ	可燃残さ	4,445 t	4,200 t	4,065 t	3,832 t	3,610 t		
	埋立残さ	3,431 t	3,264 t	3,925 t	3,833 t	3,938 t		
	残さ合計	7,876 t	7,464 t	7,990 t	7,665 t	7,548 t		
リサイクル率		76.4%	77.6%	76.8%	77.8%	77.7%		

※リサイクル率＝資源物搬出量合計／(資源物搬出量合計＋残さ合計)

【資源物の引き渡しについて】

- 札幌市収集分の資源物については、資源物の種類ごとの市況に応じ、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じた指定法人ルートまたは札幌市が再商品化事業者と直接契約する独自ルートのいずれかで再商品化事業者に引き渡している。
- 公社が収集した事業系の資源物（搬入量比で案分）については、札幌市の家庭系資源物が指定法人ルートまたは独自ルートのいずれかで引き渡し先となったリサイクル業者（再商品化事業者）を相手方とし、公社が独自に別途契約して引き渡している。



■令和4年度 事業実績(乾電池)

項 目	計画	実績	摘 要
中沼資源選別センター	212 t	245 t	計画比 15.6% 増
駒岡資源選別センター	100 t	115 t	計画比 15.0% 増
合 計	312 t	360 t	計画比 15.4% 増

※乾電池の選別は令和3年10月から実施のため、前年度実績比較を行わない。

3-3 施設管理受託事業 (決算額 164,167,134 円)

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当公社が実施している。
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、当公社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。 また、これらの施設は新設された分岐棟を除き、いずれも老朽化が進んでいることを踏まえ、札幌市と連携して適切な運営管理に努める。 【事業区分】 (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (ごみ資源化工場、篠路破碎工場、分岐棟) (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業
目的・効果	市有施設の適正かつ効率的運用による安定したごみ処理の実施

■令和4年度 事業実績

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (決算額 72,850,233 円)

【管理対象施設】

①ごみ資源化工場及び貯留サイロ等

- ・RDF工場(平成2年3月完成)、チップ工場(昭和63年3月完成)、貯留サイロ(昭和61年6月完成)
- ・事業系の紙くず及び木くずを受け入れて、ごみ資源化工場で固形燃料を生産、貯留サイロで保管する施設で、固形燃料は熱供給事業者へ供給している。

②篠路破碎工場等

- ・篠路破碎工場(昭和55年12月完成)
- ・自己搬入ごみ、大型ごみ等を受入れ、破碎処理している。

③分岐棟(インフラ供給施設)

- ・付帯施設※に代わる受変電設備等のインフラ供給施設(令和3年8月完成)
- ※付帯施設(旧清掃工場)は解体工事中(令和7年3月工事完了予定)
- ・受変電設備、蒸気暖房設備、給排水設備、消火設備等を備えており敷地内各施設への供給等を行っている。

【事業内容】

- ・公社の実施内容は、ごみ資源化工場、篠路破碎工場及び分岐棟等の円滑な運営のため、各施設の稼働・保守を目的として札幌市が別途発注する各種業務・修繕等の調整・確認等を行うとともに、施設設備の維持管理を行う。

- ・別途発注業務
 - ①ごみ資源化工場： 運転業務、固形燃料運搬業務、定期整備業務等
 - ②篠路破碎工場： 設備等運転業務、可燃物等運搬業務、分岐棟等運転業務、計量及び徴収業務、定期整備業務、篠路清掃工場解体工事等

【4年度事業実績】

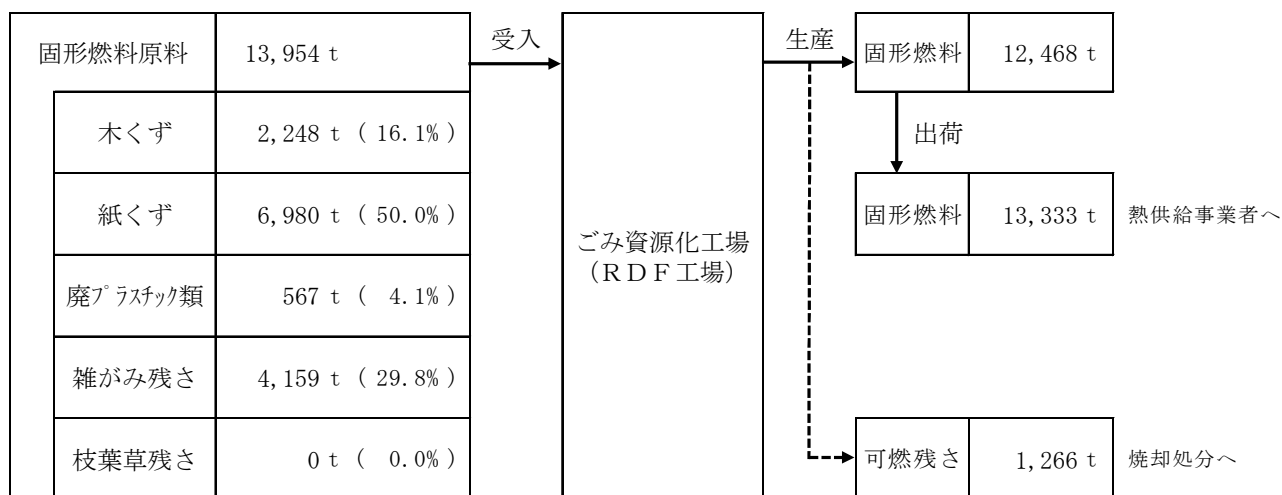
ごみ資源化工場（RDF工場）

項 目	計画	4年度実績	前年度実績	摘 要
ご み 受 入 量	15,242 t	13,954 t	13,843 t	計画比 8.5% 減、前年度実績比 0.8% 増
固形燃料生産量	13,443 t	12,468 t	12,038 t	計画比 7.3% 減、前年度実績比 3.6% 増
固形燃料出荷量	13,248 t	13,333 t	12,079 t	計画比 0.6% 増、前年度実績比 10.4% 増

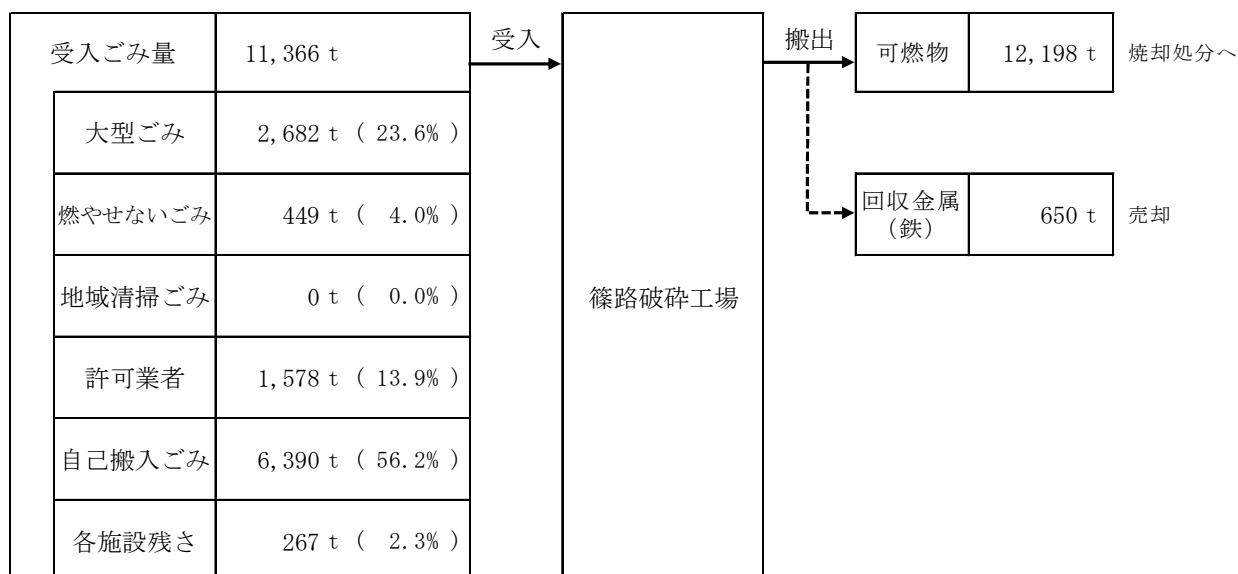
篠路破砕工場

項 目	計画	4年度実績	前年度実績	摘 要
ご み 受 入 量	9,973 t	11,366 t	10,858 t	計画比 14.0% 増、前年度実績比 4.7% 増

【図3-8 令和4年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】

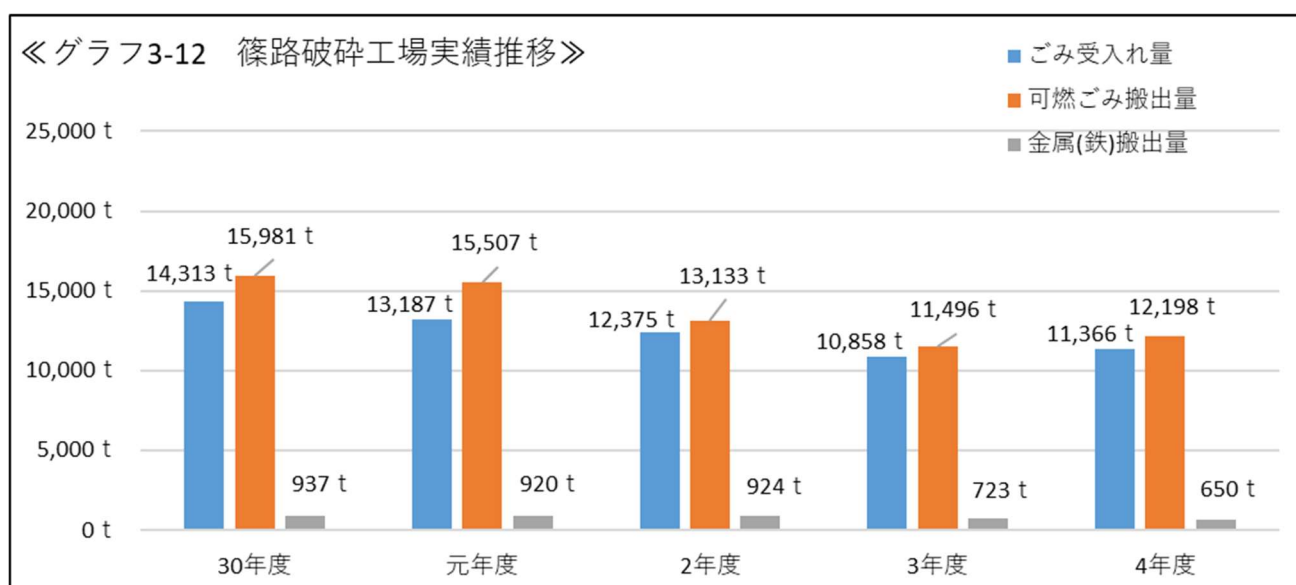
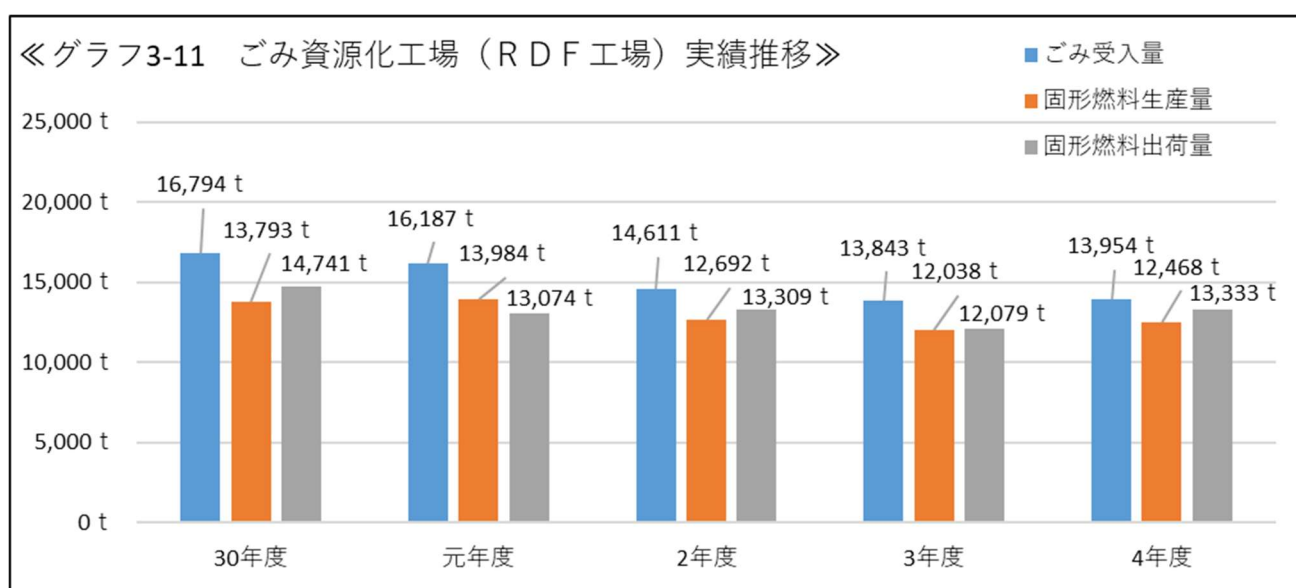


【図3-9 令和4年度 篠路破砕工場処理実績フロー図】



【表3-10 直近5年間の事業実績】

項 目		直近5年間の実績					摘 要 (令和4年度実績の状況)
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
ごみ資源化工場	ごみ受入量	16,794 t	16,187 t	14,611 t	13,843 t	13,954 t	前年度実績比 0.8% 増
	固形燃料生産量	13,793 t	13,984 t	12,692 t	12,038 t	12,468 t	前年度実績比 3.6% 増
	固形燃料出荷量	14,741 t	13,074 t	13,309 t	12,079 t	13,333 t	前年度実績比 10.4% 増
篠路破砕工場	ごみ受入れ量	14,313 t	13,187 t	12,375 t	10,858 t	11,366 t	前年度実績比 4.7% 増
	可燃物搬出量	15,981 t	15,507 t	13,133 t	11,496 t	12,198 t	前年度実績比 6.1% 増
	金属(鉄)搬出量	937 t	920 t	924 t	723 t	650 t	前年度実績比 10.1% 減



(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（決算額 39,058,294 円）

【管理対象施設】

中沼プラスチック選別センター

- ・平成12年6月完成 処理能力82.6t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び（公財）日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡す施設
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元剤等

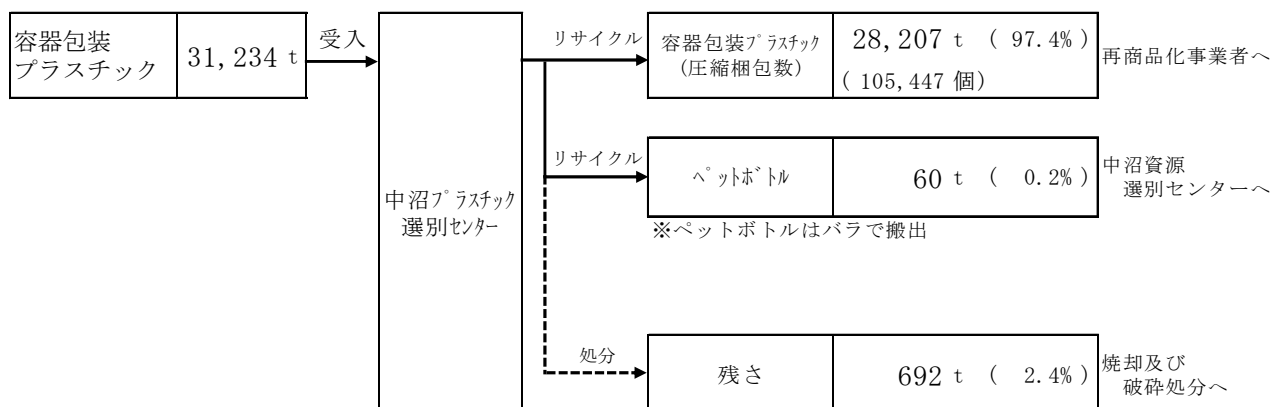
【事業内容】

- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。
- ・別途発注業務：プラスチック選別センター運転業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

【4年度事業実績】

項 目	計画	4年度実績	前年度実績	摘 要
容器包装プラスチック受入量	30,300 t	31,234 t	30,916 t	計画比 3.1% 増、前年度実績比 1.0% 増
圧縮梱包品引渡量	28,697 t	28,207 t	27,897 t	計画比 1.7% 減、前年度実績比 1.1% 増

【図3-13 令和4年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】

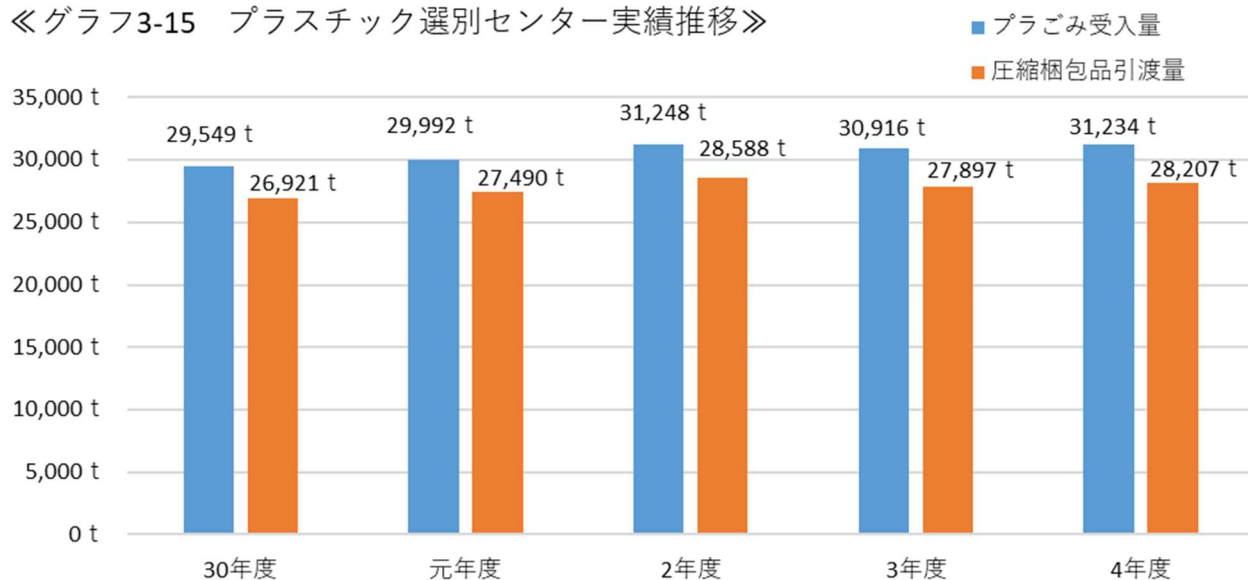


【表3-14 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和4年度実績の状況)
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
容器包装プラスチック受入量	29,549 t	29,992 t	31,248 t	30,916 t	31,234 t	前年度実績比 1.0% 増
圧縮梱包品引渡量	26,921 t	27,490 t	28,588 t	27,897 t	28,207 t	前年度実績比 1.1% 増
(同上圧縮梱包個数)	106,544個	107,360個	110,112個	105,184個	105,447個	
ペットボトル	66 t	66 t	64 t	59 t	60 t	
残さ	819 t	792 t	704 t	692 t	692 t	
リサイクル率	97.1%	97.2%	97.6%	97.6%	97.6%	

※リサイクル率＝（圧縮梱包品引渡量＋ペットボトル）／（圧縮梱包品引渡量＋ペットボトル＋残さ）

《グラフ3-15 プラスチック選別センター実績推移》



(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業（決算額 25,144,589 円）

【管理対象施設】

中沼雑がみ選別センター

- ・平成21年7月供用開始（平成9年4月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修）
- ・処理能力85t/日（2系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する雑がみを受け入れ、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者に引き渡す施設
- ・再資源化事業者におけるリサイクル用途は再生紙、トイレットペーパーの原料等

【事業内容】

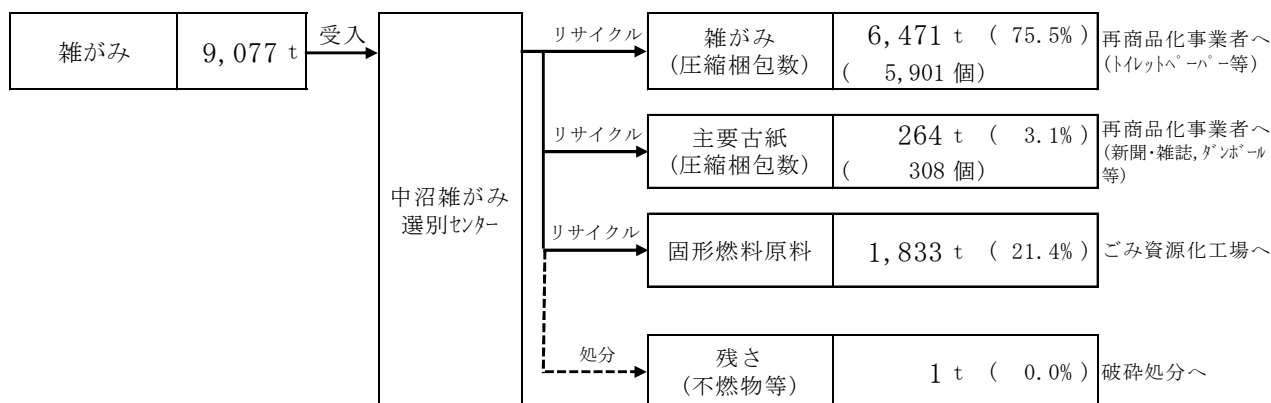
- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。
- ・別途発注業務： 雑がみ選別センター運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

【4年度事業実績】

項 目	計画	4年度実績	前年度実績	摘 要
雑 が み 受 入 量	10,480 t	9,077 t	8,772 t	計画比 13.4% 減、前年度実績比 3.5% 増
雑がみ圧縮梱包品引渡量	7,965 t	6,471 t	6,370 t	計画比 18.8% 減、前年度実績比 1.6% 増
主要古紙圧縮梱包品引渡量	335 t	264 t	267 t	計画比 21.2% 減、前年度実績比 1.1% 減
圧縮梱包品引渡量合計	8,300 t	6,735 t	6,637 t	計画比 18.9% 減、前年度実績比 1.5% 増

【図3-16 令和4年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】

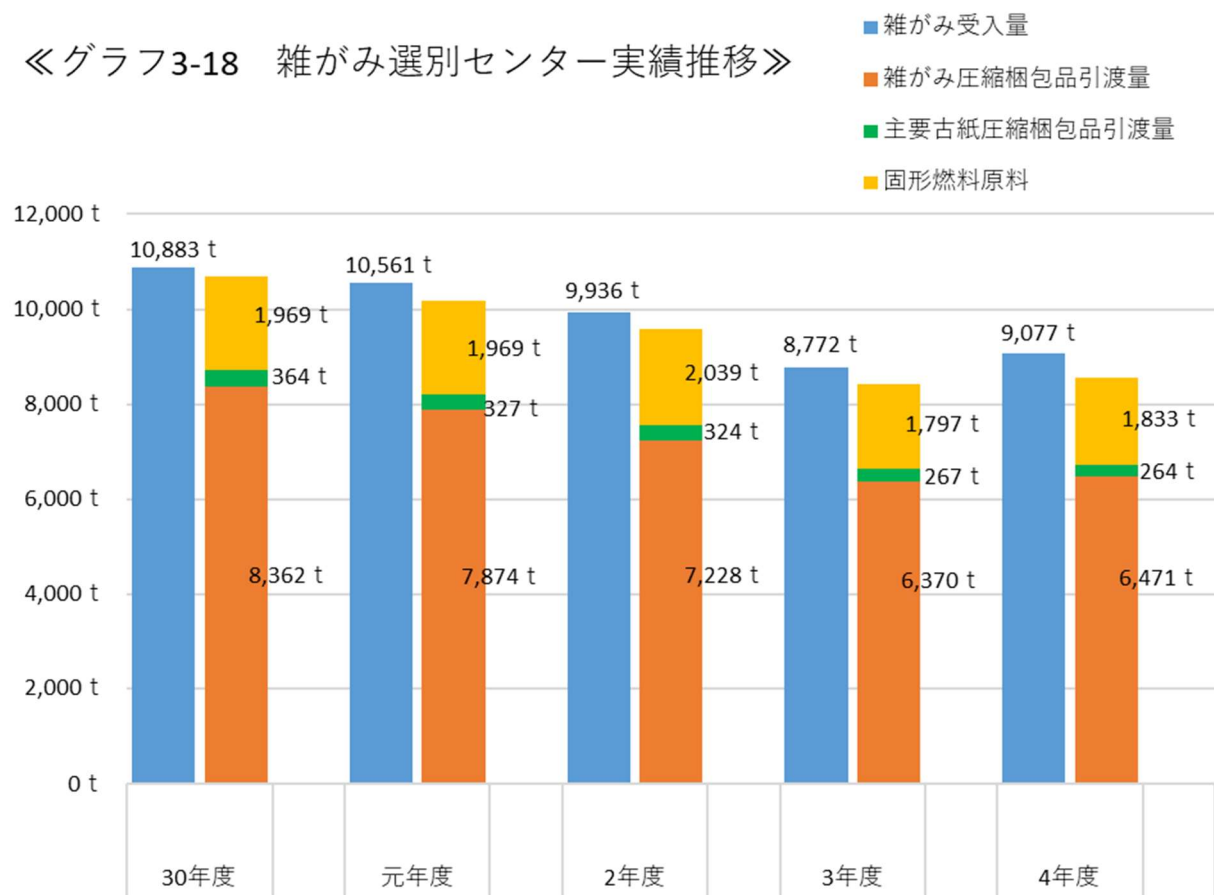


【表3-17 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和4年度実績の状況)
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
雑がみ受入量	10,883 t	10,561 t	9,936 t	8,772 t	9,077 t	前年度実績比 3.5% 増
雑がみ(雑がみ規格外品)圧縮梱包品引渡量	8,362 t	7,874 t	7,228 t	6,370 t	6,471 t	前年度実績比 1.6% 増
(同上圧縮梱包個数)	7,513個	7,157個	6,410個	5,814個	5,901個	
主要古紙圧縮梱包品引渡量	364 t	327 t	324 t	267 t	264 t	前年度実績比 1.1% 減
(同上圧縮梱包個数)	462個	418個	374個	308個	308個	
固形燃料原料	1,969 t	1,969 t	2,039 t	1,797 t	1,833 t	前年度実績比 2.0% 増
残さ	2 t	2 t	2 t	1 t	1 t	
リサイクル率	99.98%	99.98%	99.98%	99.99%	99.99%	

※リサイクル率＝（圧縮梱包品引渡量＋固形燃料原料）／（圧縮梱包品引渡量＋固形燃料原料＋残さ）

《グラフ3-18 雑がみ選別センター実績推移》



(4) 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 27,114,018 円)

【対象施設】

札幌市リサイクル団地

- ・ 札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群
- ・ 平成 6～8 年度に札幌市が基盤造成を実施、平成 7 年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間 6 社 7 施設、市有 2 施設、公社 1 施設の合計 10 施設が稼働している。

【事業内容】

- ・ 当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行うもの。
 - ① リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
 - ② リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
 - ③ 井水供給設備の維持管理業務
 - ④ 団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
 - ⑤ リサイクル団地協議会の運営業務（会議は原則月 1 回開催：7・12 月を除く）
 - ⑥ その他の管理業務

【令和 4 年度事業実績】

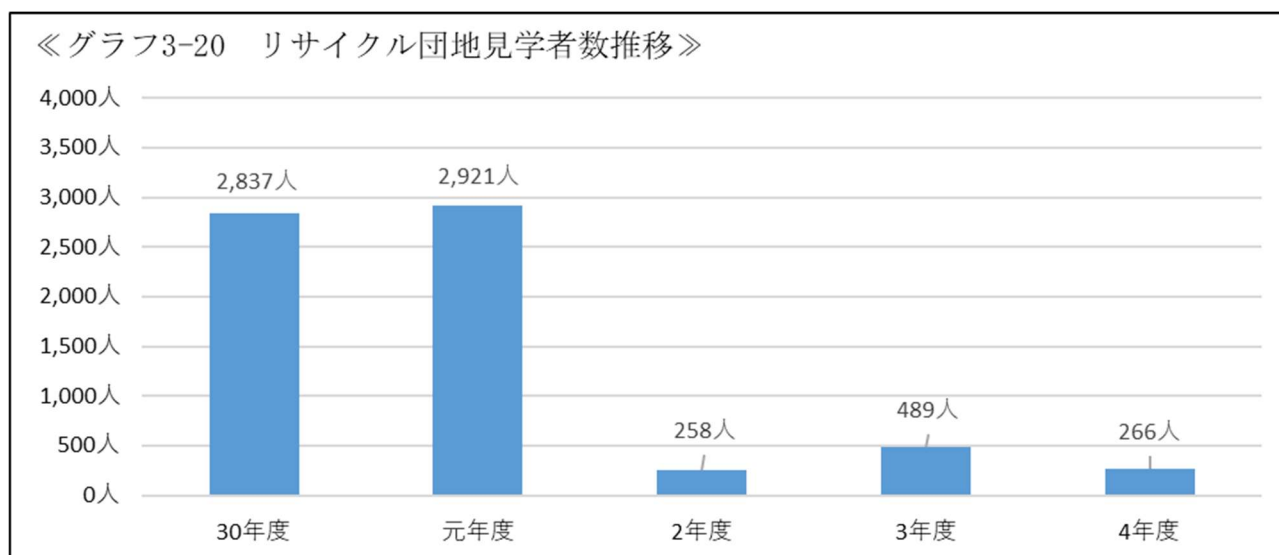
- ・ 札幌市の所管課との密な連携のもと、いずれの事業も計画に従い、適切に行った。
- ・ リサイクル団地協議会を通じ、参入企業間の情報共有、各種調整を円滑に行った。

【表3-19 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和4年度実績の状況)	
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度		
見学件数	165件	168件	38件	71件	73件	前年度実績比	2.8% 増
見学者数	2,837人	2,921人	258人	489人	266人	前年度実績比	45.6% 減

※見学申し込みの受付案内は主に当公社ホームページに掲載

※令和2～4年度は新型コロナ感染拡大防止策として札幌市及び公社施設は概ね見学中止



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業 (決算額 33,102,137 円)

■事業概要

事業経緯	札幌市が平成 9 年度から開始した大型ごみの戸別収集の申し込み受付等を行う大型ごみ収集センターについては、当初は管理部門を市の直営体制で行っていたが、平成 11 年度から当公社が受託し、市との密な連携のもと、事業を実施している。
実施内容	- 札幌市の所管課及び別途発注業務との総括調整 - 別途発注業務：電話受付業務、収集業務 - 収集車両台数の調整、未収集等苦情対応、作業調整等 - 電話受付業務受託者が対応困難な苦情・問合せ等への対応
実施場所	大型ごみ収集センター（北 1 条西 10 丁目 ユーネットビル 2F）
目的・効果	札幌市のごみ処理計画に基づく円滑な事業の実施

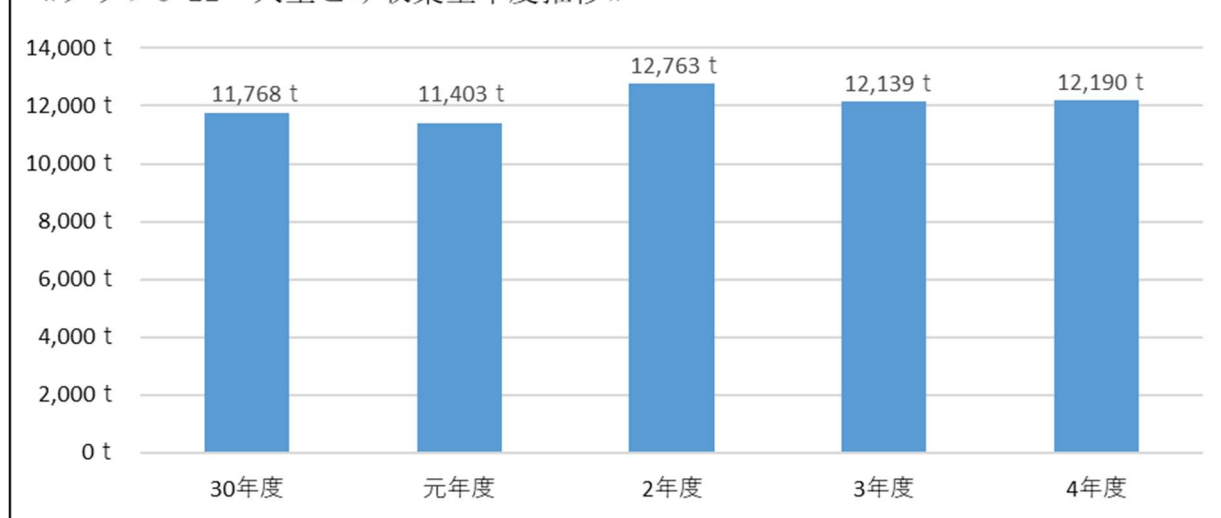
■令和4年度 事業実績

項 目	計画	4年度実績	前年度実績	摘 要
受付・問合せ件数	503,930件	520,402件	515,352件	計画比 3.3% 増、前年度実績比 1.0% 増
収 集 件 数	340,443件	369,240件	353,167件	計画比 8.5% 増、前年度実績比 4.6% 増
収 集 個 数	839,863個	917,537個	872,078個	計画比 9.2% 増、前年度実績比 5.2% 増
収 集 量 (重 量)	12,000 t	12,190 t	12,139 t	計画比 1.6% 増、前年度実績比 0.4% 増

【表3-21 直近5年間の事業実績】

項 目	直近5年間の実績					摘 要 (令和4年度実績の状況)
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
受付・問合せ件数	472,700件	473,494件	521,663件	515,352件	520,402件	前年度実績比 1.0% 増
収 集 件 数	328,257件	325,412件	349,118件	353,167件	369,240件	前年度実績比 4.6% 増
収 集 個 数	826,842個	812,544個	861,547個	872,078個	917,537個	前年度実績比 5.2% 増
収集量 (重量)	11,768 t	11,403 t	12,763 t	12,139 t	12,190 t	前年度実績比 0.4% 増

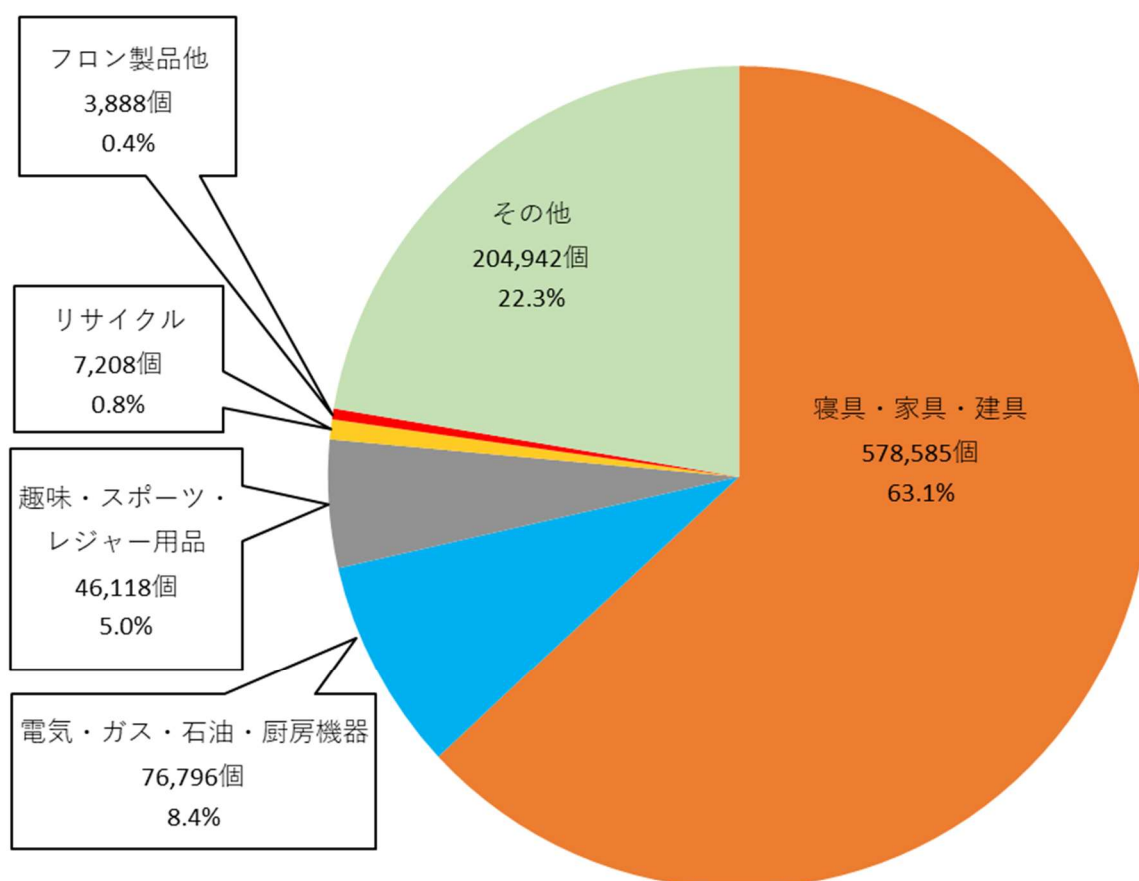
《グラフ3-22 大型ごみ収集量年度推移》



【表3-23 主な収集品目(上位10品目)】

	品 目	収集個数	割合
1	椅子	134,548個	14.7%
2	衣装箱	108,941個	11.9%
3	布団	80,608個	8.8%
4	テーブル	49,456個	5.4%
5	ベッドマットレス	29,921個	3.3%
6	カーペット	28,387個	3.1%
7	自転車	27,174個	3.0%
8	ベット	26,413個	2.9%
9	カラーボックス	26,128個	2.8%
10	ロッカー	21,375個	2.3%
—	その他	384,586個	41.8%
	合計	917,537個	100.0%

《グラフ3-24 大型ごみ収集品目大分類内訳》



4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 5,835,667,862 円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業
実施内容	1 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物を収集運搬 ア 焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集 イ リサイクルごみの種類は、「資源化ごみ（紙くず・木くず・軟質プラスチック）」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬
収集先	伝票収集：約 10,000 事業所、プリペイド袋収集：約 24,500 事業所
運搬先	「一般ごみ」→ 白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃プリペイド袋」「剪定枝」→ 篠路の資源化工場 「生ごみ」→ 中沼の札幌飼料化リサイクルセンター、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→ 中沼・駒岡の各資源選別センター
目的・効果	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進

■ 令和4年度事業実績

(1) ごみの総収集量

区分	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積 m^3	925,480	1,006,211	950,440	計画比 8.7%増、前年度実績比 5.9%増
重量 t	147,660	154,089	146,713	計画比 4.4%増、前年度実績比 5.0%増

(2) 廃棄ごみ・リサイクルごみの「収集量」「全体に占める割合」

廃棄ごみ＝一般ごみ（可燃用プリペイド袋を含む。）

区分	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積 m^3	754,552	830,021	777,667	計画比 10.0%増、前年度実績比 6.7%増
重量 t	117,900	125,023	117,206	計画比 6.0%増、前年度実績比 6.7%増
割合%	81.5	82.5	81.8	廃棄ごみ体積／総収集量体積

リサイクルごみ＝一般ごみ以外

区分	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
体積 m^3	170,928	176,190	172,773	計画比 3.1%増、前年度実績比 2.0%増
重量 t	29,760	29,066	29,507	計画比 2.3%減、前年度実績比 1.5%減
割合%	18.5	17.5	18.2	リサイクルごみ体積／総収集量体積

(3) リサイクルごみの収集量 (体積 m^3)

ごみ種	計画	今年度実績	前年度実績	摘 要
資源化ごみ	84,510	86,454	85,498	計画比 2.3%増、前年度実績比 1.1%増
生ごみ	42,600	41,434	43,199	計画比 2.7%減、前年度実績比 4.1%減
不燃用プリ袋	26,774	27,876	26,018	計画比 4.1%増、前年度実績比 7.1%増
剪定枝	2,514	3,478	3,341	計画比 38.3%増、前年度実績比 4.1%増
びん・缶・ペット	14,530	16,948	14,717	計画比 16.6%増、前年度実績比 15.2%増
合 計	170,928	176,190	172,773	

(4) 家庭用パソコンのリサイクル収集台数 (回収メーカー不在、自作パソコン等)

資源有効利用促進法により、家庭系パソコンは各メーカーが回収しているが、自作パソコン等は当公社で収集している。

収集品目	今年度実績	前年度実績	対前年
パソコン本体等	28	25	3台増
ディスプレイ等	39	34	5台増
合 計	67	59	8台増

■ 直近5年間の事業実績 (ごみ総収集量の推移)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均値
体積 m^3	1,060,477	1,045,842	923,288	950,440	1,006,211	997,252
重量 t	174,222	169,963	145,086	146,713	154,089	158,015

■ 契約件数

契約方法	今年度実績	前年度実績	対前年
伝票収集	9,888	9,891	3件減
プリペイド袋収集	24,526	24,187	339件増
合 計	34,414	34,078	336件増

■ インボイス制度に対応した請求書の発行

令和5年10月1日から、「適格請求書等保存方式 (インボイス制度)」が導入される。

公社では、現在、毎月約6,200事業所に請求書を送付しているが、インボイス制度の導入に先立ち、令和5年4月27日以降発行分の請求分から、消費税の適用税率や発行事業者登録番号などを記載した適格請求書を発行している。

5 重点項目の実施状況

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

ア 収集回数の削減に向けた取組

収集の際に把握した排出量と収集回数が見合っていない事業所に対し、適正な収集回数となるよう働きかけを行っている。また、新規プリペイド袋契約事業所に対しては、WEBや電話での収集受付を基本とし、定期収集の希望があった場合、1か月程度の収集実績を検証した上、一定量の排出があった場合に定期収集としている。

イ 業務管理システムの自動配車機能の追加

プリペイド袋収集については、これまで手作業によって配車を行っていたが、令和4年7月、過去の収集データを参考に自動的に配車を行う「自動配車機能」を導入した。現在、プリペイド袋の配車は、90%以上が「自動配車機能」を使って配車しており、業務担当者の作業負担の軽減が図られている。

(2) 施設の計画的な保全

計画的な施設保全整備として、駒岡資源選別センターの外壁全面の改修（塗装とコーキング）及び防災設備の更新を行ったほか、駒岡、中沼の両資源選別センターにおいて、貯留ヤードの床修繕を行った。

(3) リサイクルに関する調査研究

平成29年度から「剪定枝等処理委事業に使用しているハンマーの材質に関する調査」を実施してきたが、材質はスウェーデン鋼、形状を片刃ハンマーとすることで従来コストを半減する成果が得られたことから、令和4年度で調査終了とした。

(4) 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応

ア 一時多量ごみの顧客サービスの向上

家庭系一時多量ごみは、収集量、収集件数ともに増加傾向にあり、これまでも収集量に見合った収集車の増車を行ってきた。令和4年度も増加傾向が続いたことから、令和4年12月、専用車を平日5台に増車し、顧客サービスの更なる向上を図った。

イ アンケート調査の実施

プリペイド袋収集の現状や問題点などを把握し、今後のより良いサービスの提供に活用するため、令和4年10月、事業所用プリペイド袋排出事業者約24,000件のうち2,700件を抽出しアンケート調査を行った。

回答があった事業所は1,123件で、回答率は42%。「ごみ収集の対応について」という問いに対しては、「満足している」と「まあ満足している」を合わせて92%の事業者から評価をいただいた。

(5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

ア プリペイド袋収集受付システムの利用促進

24時間申込みが可能な「プリペイド袋収集受付システム」について、電話受注が多い事業所や新規契約事業所に対し文書などで利用促進のPRを行った。これらの結果、総受付件数

198,112 件の 50.4%に当たる 99,864 件がスマートフォンやパソコンからの受注となり、電話受付本数の削減による事務作業の軽減につながった。

イ 電話受付の効率化

ごみの収集申込などの電話対応については、毎日 500～800 本の受付を各職員が事務処理をしながら行っていた。令和 5 年 1 月、電話対応担当と事務処理担当が専任で各業務を行うこととし、加えて指定した電話機の中で、待機時間の長い電話から順番にコールすることが可能な電話交換機を導入し、電話受付本数の平準化と事務処理の効率化を図った。

令和4年度事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。